

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

データ連携による貸金支払事務の効率化

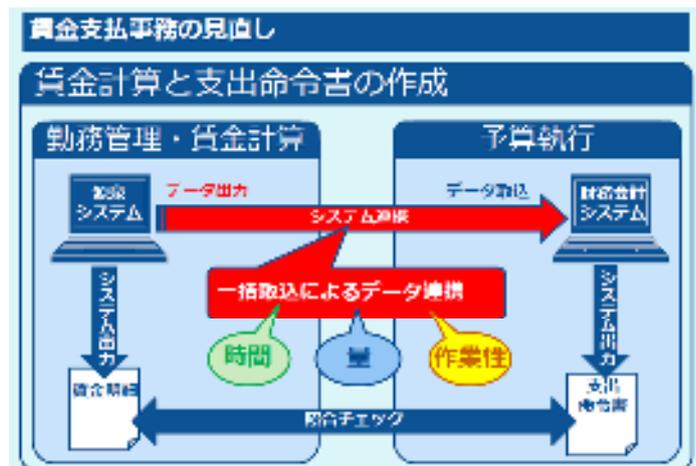
2 取組期間

H29.7	H29.8	H29.9	H29.10	H29.11	H29.12	H30.1	H30.2	
着手	検証	導入	効果測定	事務改善 提案制度 エントリー			事務改善 発表会 大賞受賞	以降 継続中 →

3 取組概要

貸金支払事務に用いる2つのシステムをデータ連携させることによって、事務全体の効率化を実現しました。

この取組によって、貸金支払事務が抱えていた時間・量・作業性の問題を解消することができました。



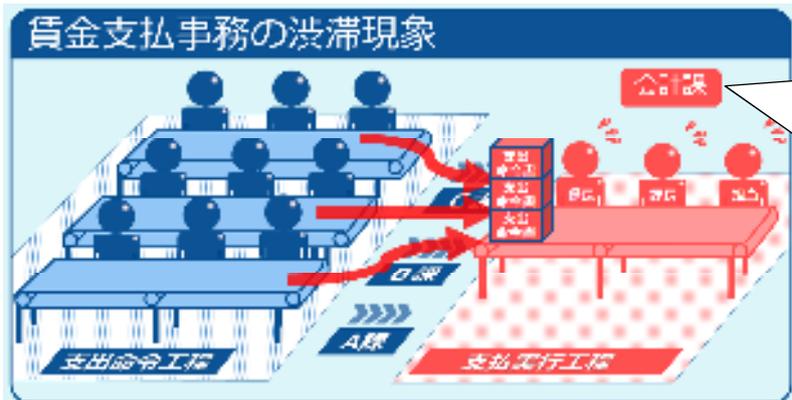
4 背景・目的

位置付け

- ・ 庁内組織の事務改善委員会が募った職員提案制度から生まれたアイデアです。
- ・ 平成30年2月に開催された発表会「大府式改善ビフォーアフター9th」では、大賞を受賞しました。

背景

- ・ 毎月の臨時職員の賃金支払事務において、限られた日数の中で膨大な件数の事務処理をこなすために、他の予定を排除することで作業時間を確保し、その事務に専念する必要がありました。
- ・ 賃金支払事務の効率化は、多くの臨時職員を抱える担当課、支払事務を一手に引き受ける会計課、いずれの立場においても優先的な課題になっていました。



(会計課の特色)

- ・ コンパクトな組織のため業務量の増加に弱い。
- ・ 一連の支払手続の最終段階を担当している。
- ・ 全ての公金支払に関わっている。

⇒一時的な業務集中のダメージ大

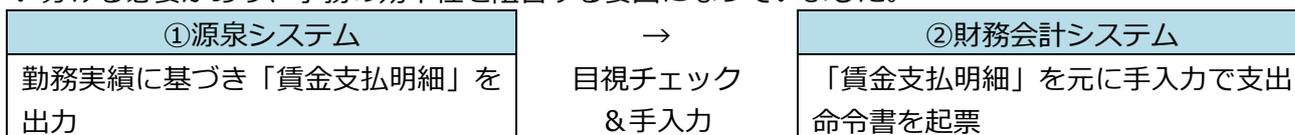
発生していた問題

次の(1)～(3)が複合的に絡み合ことで、賃金支払事務全体の効率性・正確性の低下を招く悪循環に陥っていました。

- (1) 事務負担の一時的な集中
- (2) データ入力誤り
- (3) チェック作業(決裁・審査)の滞り

問題を引き起こしていた要因

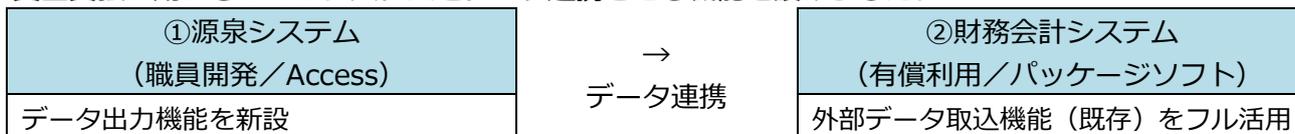
賃金支払するためには、①賃金計算、②支出手続の各段階で、相互連携していない2つのシステムを使い分ける必要があり、事務の効率性を阻害する要因になっていました。



5 取組の具体的内容

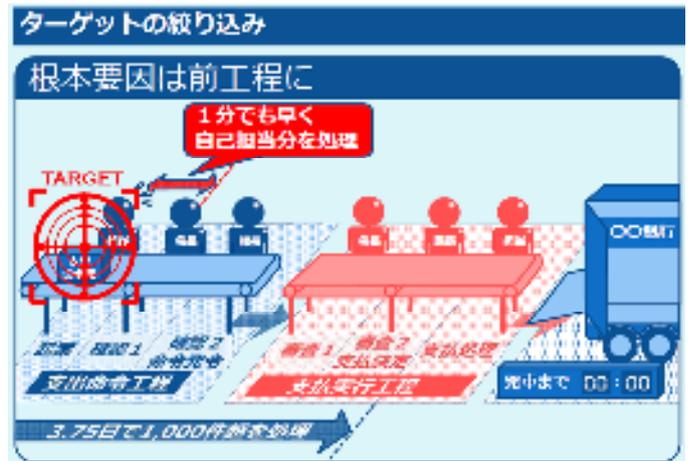
改善の方法

賃金支払に用いる2つのシステムをデータ連携させる機能を設けました。



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

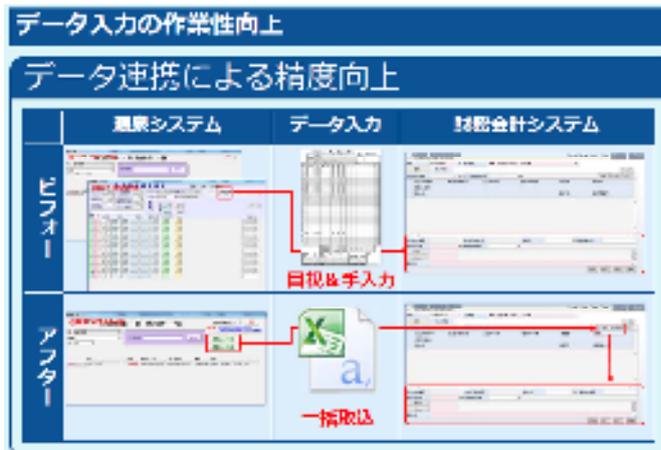
事務全体を大きな視点で見つめたことで、会計課で発生している課題を解消するために改善すべき根本要因が前工程にあることに着目しました。



7 取組の効果・費用

データ連携による精度向上

従来目視チェック&手入力方式からデータ連携に改めたことで入力誤りがなくなりました。



所要時間の短縮

従来的一件ずつの手入力を一括取込方式に改めたことで、事務コストを圧縮することができました。

月当たり△628分

年間事務コスト 213,520 円相当

時間の短縮

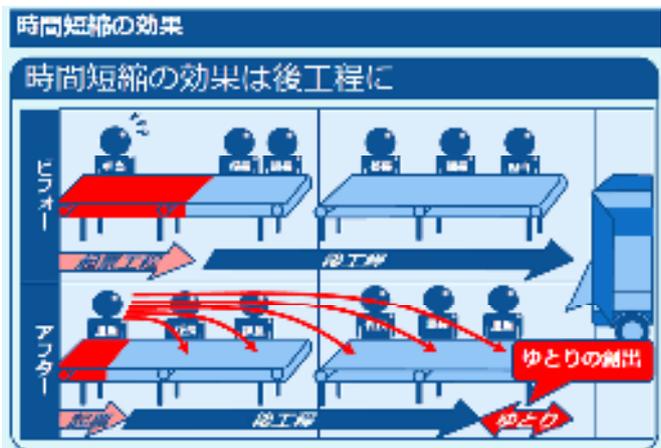
所要時間の比較

	ビフォー	アフター	減率
仕入 場取り	1分/1件 ※稼働1行の入力時間	3分/1単位 ※一括取込1回の処理時間	
仕入 場取込	241分 (1分×441件)	51分 (3分×17単位) ・12回 ・一括取込回数	△390分
仕入 場取込 の事務 コスト	2830円 (1分×2830円)	450円 (3分×15単位) ・6単位 ・9クラス	△2380円
合計			△628分 年間事務コスト 213,520円相当

※事務コストは、人件費1000円/分を算入し、概算です。

ゆとり時間の創出

事務改善の結果、賃金支払事務に専念せざるを得ない状況を緩和することができました。



8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

システム改修

- ・公金支出に直結するミスの許されないシステム改修であったため、動作検証を重ねて慎重な作業に注意しました。

ニーズの発掘

- ・独りよがりの取組にならないようユーザーニーズの発掘に努めました。利用頻度の多い担当者の協力を得て、操作性やデータの表示項目や並び順などにこだわって使い勝手の良いシステムを目指しました。

活用の促進

- ・システムの目立つ場所に「お知らせ」表示することで新機能を積極的に周知しました。
- ・「ヘルプ」機能を設けて新機能の活用を促進させました。

実務支援

- ・「ヘルプ」内には、新機能の活用方法や操作方法に加え、メリット・デメリットを添えることで、システム操作に不慣れな職員向けに実務を支援しました。

9 今後の予定・構想

現在のところ、保育園、小中学校等の施設を取りまとめする部署を始めとして一部の部署にしか利用されておらず、せっかくの改善効果が限定的な水準に留まっています。

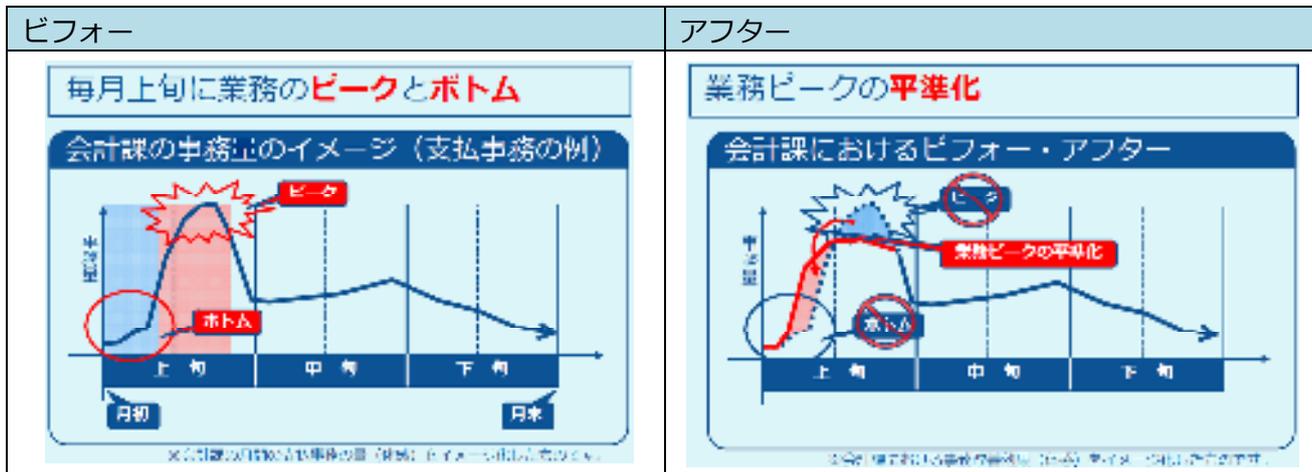
より多くの部署での利用を促進させることでこの取組の効果が全庁的に拡大すると思われます。

10 他団体へのアドバイス

小さな積み重ねが大きな効果を生む

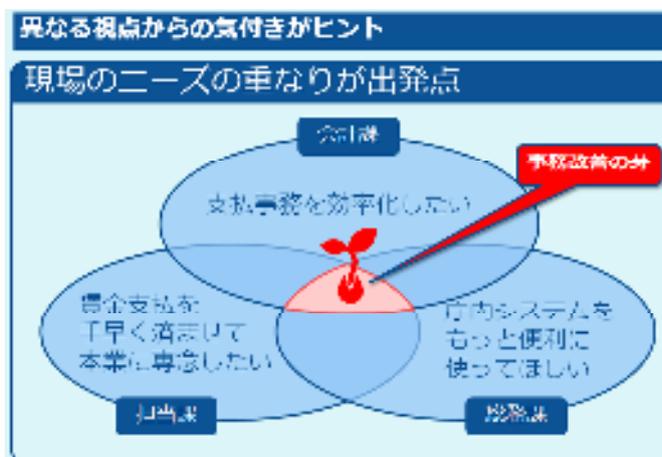
私たち会計課にとって、今回の取組は、あくまで事務の集中を分散させることを目的としたものでありません。決して事務の総量が変わるわけではなく、劇的な変化を伴うほどのものではありません。

しかしながら、その少しの改善効果が毎月繰り返されることを思えば、数年後には決して無視できない大きな違いを生むと考えます。また、会計課特有の弱みを自らのアイデアで補った取組は、組織の持続可能性の観点からも有意義なものだったと思います。



垣根を越えた協働による改善

縦割りになりがちな行政において、凝り固まった考え方を違った角度から見つめ直すことで新たな発想のヒントが得られることも多いと感じます。今後、行政課題の複雑化・高度化が進む中で、同じ職場の仲間同士で協力し合うことが不可欠だと思います。



11 取組について記載したホームページ

・取組について掲載しているHPがある場合には、URLを記入してください。